

発行日：2003年11月28日（ほぼ月刊）

発行：中野区区長室基本構想担当

〒164-8501東京都中野区中野4-8-1

電話03-3228-5572

☆メールマガジンや基本構想改定に関するご意見・ご連絡は下記アドレスへ
kiahonkoso@city.tokyo-nakano.lg.jp

☆メールマガジンのバックナンバーをご覧になりたい方はこちらへ

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/kikaku/kousou/magazine.html>

☆現在のの中野区基本構想（昭和56年制定）をご覧になりたい方はこちらへ

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/kikaku/kg028.html>

■もくじ

- ◇ 第2回基本構想シンポジウムが行われます
 - ◇ 【ひとこと解説】「バリアフリーとユニバーサルデザイン」
 - ◇ ワークショップ調整会議で合意されたこと
 - ◇ 傍聴案内
 - ◇ 編集後記
-

■第2回基本構想シンポジウムが行われます

＝12月3日（水）午後7時～9時 勤労福祉会館地下多目的ホール＝

いよいよ第2回基本構想シンポジウムが迫ってきました。今回のテーマは「区民ワークショップ中間報告」。内容は、10月29日に行われた、「基本構想を描く区民ワークショップ全体会」での各分野の調整を経て、これまで検討してきた、基本構想に盛り込むべき内容についてのワークショップとしての提案の中間まとめを、4つの分科会の発表者が、ビデオプロジェクターや資料などを用いて発表し、参加されている区民の方々と意見交換を行うというものです。だされた意見は、最終提案をまとめていく参考として、今後の検討に生かしていきます。

全体会の内容は前号でお知らせしたとおりですので、今号では、全体会以降に行われたワークショップで検討された内容、今後の進め方等をご紹介します。ただし、各分科会とも、シンポジウムギリギリまで検討作業が行われていますので、詳しい内容は、ぜひシンポジウムにご参加いただいて、ワークショップからの発表をお聞き頂きたいと思います。

参加希望の方は、直接会場へお越しください。先着100人です。車でのご来場はご遠慮ください。

なお、「区民ワークショップ中間報告」の内容は、12月21日号の区報でもお知らせいたします。

☆第1分野（持続可能な活力あるまちづくり）

全体会まで「まちづくりA」「まちづくりB」「産業」「環境」の4つのグループに分かれて検討を続けてきた提案内容について、4つの班で共有できる『持続可能なしくみ』を見出すため、新たに「ライフスタイル」「システム」「空間」「財政・施策」の4つの観点から再整理した内容を中間提案と位置付け、25日の分科会でプレ発表を行いました。プレ発表の内容は以下のとおりです。

「持続可能な生活都市・中野を自ら創り出すチカラ」をテーマに、自ら創り出すチカラとして、「ゆとり」と「域内循環」を掲げました。

まず「ゆとり」を創り出すチカラとして、時間・空間・ライフスタイルを掲げ、その中でいくつかの提案をしています。例えば・・・

「道のゆとり」として、

○歩いて楽しい道 ・「歩行の障害」からの脱皮

○「歩く」を補完する交通 ・南北の移動手段としてのコミュニティバス

- ・「歩く」ことが優先する街

「空間のゆとり」として

- だれもが親しめる緑地 ・緑地・市民農園
- 住居 ・ゆとりある居住空間の創造力

などです。

また「域内循環」を創り出すチカラとして、産業・資源・財源・人的ネットワークを掲げ、内容としては、

「産業の域内循環」として、

- 地産地消、職住近接、魅力ある「中野発」の商品・商店

「財」の域内循環として、

- サービス（役務）の流通多様化 ・地域通貨による人的資源の活用
- 域内経済の再生 ・「中野らしい」商店街の再生
 - ・区内消費、区内調達への誘導
 - ・産業インキュベーション

などです。

加えて、次世代に伝える想像力として、

- 居続けることができるまち
 - 温かく迎え入れ、ともに守るコミュニティ
 - 災害に耐えうる街と人的ネットワーク
- という将来像が挙げられています。

上記の内容について、「チカラ」の言いまわしを変えたい、カタカナを日本語にするべき、域内循環という言い方を変えるべき等のメンバーからの様々な意見を集約して3日の発表を行う予定です。

☆第2分野（自立してともに成長する人づくり）

中間発表の全体的な理念として「中野で育ててよかった、中野区に住んでよかった、中野区に住み続けたい」とし、「子育て支援」「学校教育」「社会教育」の3つの分野を貫く理念、「人権」「平和」「男女平等」別にそれぞれ10年後の中野の姿を下記のようにまとめました。

【人権】

- 「相手を尊重する心と、自尊心を育てる教育がなされている」
- 「あらゆる差別を許さない地域社会が実現している」
- 「なかの子ども権利条例が制定され、教育行政・地域社会に生かされている」

【平和】

- 「平和教育への取り組みが目に見える形で行われ、身近に国際平和を考えている」
- 「世界平和に貢献できる人づくりが行われている」

【男女平等】

- 「男女共同参画社会への取り組みが推進されている」

現在も中間発表に向けて、「子育て支援」「学校教育」「社会教育」の3つの分野における10年後の中野の姿をまとめる作業を続けています。

☆第3分野（支えあい安心して暮らせるまち）

WS全体会時には検討中だった全体的な理念を、「思いやり、ともに尊重し、人々が生き生き暮らせ住み続けられる中野」としました。現在は、いままでに掲げられた「福祉一般」「地域活動」「保健・健康・介護予防」「施設・環境整備」「行財政運営」という5ジャンルごとの10年後の姿を実現するための、個別の提案をまとめる作業を進めています。また提案が数多くなるので、優先順位をつける作業も、今後あわせて行っていく予定です。

10年後の姿として現在掲げられている項目は下記のとおりです（抜粋）

「福祉一般」

- ・ハンディキャップのある人たちがさまざまな場に参加し、活躍する姿があるまち

「地域活動」

・一人ひとりが生き生きと暮らせる地域づくり

「保健・健康・介護予防」

・身近な人たちの支えあいによって安心して暮らせるまち

「施設・環境整備」

・施設は「入所」から「在宅生活を支える」形へ

「行財政運営」

・行政の責任はサービスのマネジメントとプロデュース

☆第4分野（新しい自治のあり方）

全体会後の話し合いでは、主に「地域ガバメント」についての検討に時間を割き、中間報告においても、「地域ガバメント」についての発表を行います。

まず地域ガバメントの目的として、

○区民による〈自治への参画〉で、活力ある中野を目指す

○自己統治〈地域決定、地域自治、住民責任〉の出来るまちにする

○住民は参加にとどまらず自前で執行、やるべきことを行政から取り戻す決意をする

が、あげられています。

また、地域ガバメントとは、

○小さな区役所（都との交渉、中長期計画、地域ガバメントとの連携、投資の優先順位決定）を作ることを目指す

○地域ガバメントでは、「独自のプランを掲げ、実現を図る」（地域の特性を把握して）

○地域ガバメントのリーダーは住民から選出

○将来は議会の機能も地域ガバメントへ

というイメージです。

また、これからの10年で何をすべきかという提案で、

○今後の取るべき施策として「地域ガバメント」を提案いたします

○住民本位、活力ある中野を取り戻すために

○潜在化している住民の組織能力を最大限に活用するために
が提案されています。

☆7月5日に開催された第1回基本構想シンポジウムの概要は、PDFファイルでご覧いただけます。

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/kikaku/kousou/sinpojiumu.pdf>

☆ワークショップのこれまでの活動状況は、こちらでご覧いただけます

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/kikaku/kousou/workshop.html>

■【ひとこと解説】「バリアフリーとユニバーサルデザイン」

ワークショップの各分科会の検討を進めているなかで、「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」という言葉がよくでてきます。この言葉は生活のなかでもよく耳にする言葉ですが、似たような意味合いで使われていることが少なくないように思われます。では、この二つの言葉の違いはどのようなことなのでしょう。

まず、バリアフリーとは、高齢者や障害者など誰もが社会生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを取り除くことをいいます。もともとは道路の段差解消など施設面の色彩が強い言葉でしたが、広義には社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な障壁（バリア）を除去していくという意味で用いられることもあります。

一方、ユニバーサルデザインとは、ユニバーサルという英語が「普遍的

な、すべての」という意味からもわかるとおり、製品、建物、環境を、あらゆる人が利用できるように初めから考えてデザインするという概念です。障害、年齢、性別、国籍等、人が持つそれぞれの違いを超えて、すべての人が暮らしやすくなることを前提としたこの概念は、アメリカのロン・メイス氏が提唱されたものです。

したがって、バリアフリーとユニバーサルデザインとの違いをあげるとすれば、バリアフリーは今すでに障壁（バリア）が存在し、それらを取り除き軽減していくという考え方に対し、ユニバーサルデザインは、最初から障壁（バリア）が取り除かれていることを目指す考え方であるといえます。

■ワークショップ調整会議で合意されたこと

去る19日に第5回区民ワークショップ調整会議が開かれました。この会議の位置付けは、各分科会のリーダーとサブリーダーが集まり、各分科会の進め方等についての調整等を行う会議で、ほぼ月1回程度の頻度で開催されています。今回は、各分科会の進捗状況についての報告、全体会でだされた質問や意見の取扱い、シンポジウム及び審議会での発表者の決定などについて話し合いを行いました。

その話し合いのなかで、ワークショップ全体としての提言の必要性について意見がだされ、各分野の提案の上に、「こういう基本構想にしたい」「チェック機能を果たしたい」といった理念や方法論を、ワークショップ全体としてつけたいという意見が多数を占めました。

その結果、〈四分野共通意見書〉という分野にまたがる大きな問題を各分野で検討してもらい、その意見を調整会議でまとめ、再度各分野に投げかけて承認してもらうということで合意されました。

■傍聴案内（どなたでも傍聴ができます）

☆12月と1月の基本構想審議会

12月 4日（木）午後7時から9時まで、勤労福祉会館・3階 大会議室で。
議題「区民ワークショップ中間提案について」など

12月19日（金）午後7時から9時まで、区役所・7階 会議室で。

1月14日（水）午後7時から9時まで、商工会館・3階 会議室で。

1月27日（火）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

議題は未定です。

☆12月と1月の区民ワークショップ[予定]

(1) 第1分野「持続可能な活力あるまちづくり」

12月 6日（土）午前10時から正午まで、区役所・9階 会議室で。

12月16日（火）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

1月 8日（木）午後7時から9時まで、区役所・7階 会議室で。

1月20日（火）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

(2) 第2分野「自立してともに成長する人づくり」

12月 9日（火）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

12月22日（月）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

1月13日（火）午後7時から9時まで、区役所・7階 会議室で。

1月24日（土）午前10時から正午まで、商工会館・3階 会議室で。

(3) 第3分野「支えあい安心して暮らせるまち」

12月13日（土）午前10時から正午まで、区役所・7階 会議室で。

12月22日（月）午後7時から9時まで、区役所・7階 会議室で。

1月10日（土）午前10時から正午まで、区役所・7階 会議室で。

1月19日（月）午後7時から9時まで、区役所・7階 会議室で。

(4) 第4分野「新しい自治のあり方」

12月 2日（火）午後7時から9時まで、区役所・9階 会議室で。

12月20日（土）午前10時から正午まで、区役所・9階 会議室で。

1月 6日（火）午後7時から9時まで、商工会館・3階 会議室で。
1月17日（土）午前10時から正午まで、商工会館・3階 会議室で。

(5) リーダー・サブリーダーによる調整会議
12月27日（土）午後7時から9時まで、区役所・7階 第3会議室で。

■編集後記

今年も早いもので、残すところあとひと月となりました。そして12月3日のシンポジウムでの中間発表まで、なんとっ！あと5日です。ワークショップでは、中間発表に向けて、11月はどの分科会も臨時会を開催し、まとめの作業を進めてきました。まさに今頃、作業をしている分科会もあるくらいではないでしょうか!?

こんなにも頑張ってきて集約してきた成果を区民の方との意見交換により今後、より一層いい提案にしていけるように、シンポジウムへの大勢の区民の方々の参加をお待ちしていますm(_ _)m

さてほぼ月1回のペースで発行してきたこのメールマガジンですが、年内の発行は今号までとさせていただきます。シンポジウムの中間発表の内容については、1月の早い時期の発行を予定しています次号、または12月21日号の区報をご覧いただきたいと思います。

少し早いあいさつになりますが・
本年中はメールマガジンをご愛読いただきましてありがとうございました。これから寒い日も続くかと思いますが、皆様が風邪などひかないように、元気に年末年始を過ごされることを心からお祈りしております。

※アドレスの変更、配信中止のご連絡も下記アドレスへどうぞ。
kihonkoso@city.tokyo-nakano.lg.jp